

令和8年(2026年)

4

No.834

The Religion News

宗教新聞

https://www.religion-news.net

発行所 宗教新聞社
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-2
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
© 宗教新聞社 2026

購読料 1部 500円
(税込) 半年 3,000円(千共)
年間 6,000円(千共)

今宮神社の龍神祭と秩父神社の御田植祭

八代龍王神と水の恵みに感謝

埼玉県秩父市

4月4日、「龍神祭」が今宮神社(塩谷崇之宮司)の大ケヤキ「龍神木」の前で斎行された。龍神祭は、八代龍王神の神徳と水の恵みに感謝する祭り。境内にある龍神池には、秩父の霊峰・武甲山からの伏流水が湧き出しており、武甲山の龍神様がこの地に降臨すると信仰されている。

午後に行われた水を分け与える神事である「水分神事(みくまりしんじ)」では、総鎮守である秩父神社に神水(水麻)が授けられ、秩父地方の農耕の一年が始まった。この日、秩父神社では関

連行事として「御田植神事」も行われ、稲作の始まりを神前に報告し、五穀豊穡が祈願された。八大龍王を象徴する雨が時折降る中、午前10時半に祭事が厳かに始まった。修祓の儀、祭主一

献饌の儀に続き、祭主・塩谷崇之宮司により祝詞が奏上された。

その後、本山修験宗の大先達に合わせて参列者一同が般若心経を奉誦し、「豊稔舞」の奉奏、「墨絵演舞」の奉納と続いた。宮司が玉串を奉って

拝礼、氏子総代、清野和彦秩父市長ら参列者がそれに続いた。撒饌、祭主一拜。龍神祭は滞りなく修められた。

塩谷宮司は「八大龍王は雨と水をつかさどる神様で、水は我々の生活に欠くことのできないものだ。今日の龍神祭では皆様の御無事と秩父地域、そして関東平野全体の安寧を祈った」と述べた。

秩父神社では「御田植祭」が始まり、午後1時に蘭田建(たける)宮司以下神職・作家老が本殿に昇殿。神部たちと「御



水分神事で今宮神社の塩谷崇之宮司(左)から水麻を受け取る秩父神社の新井君美禰宜(右)



秩父神社の境内で田仕事の所作をする作家老と神部たち=4月4日、埼玉県秩父市の秩父神社

本殿の儀」を斎行。豊作を祈念する祝詞が奏上された。玉串を奉奠の後、山の神(水神、龍神)の依代である水麻を宮司が取り出し、禰宜から小川篤作家老に手渡された。午後1時半、水乞いの御神幸行列が今宮神社に向かう。神職の先導のもと、笛や太鼓の音に導かれ、水麻を掲げた作家老と鉦を担ぐ神部たちが市内を練り歩き、今宮神社へと向かった。

一行が今宮神社に到着すると「水分神事」が社殿で行われた。修祓の儀、祭主一拜。献饌の後に、水麻(みずぬさ)授受の儀が行われ、神部代表の黄色装束の作家老(小川篤氏)が水麻を秩父神社の新井君美禰宜に渡し、さらに今宮神社の塩谷宮司に渡され、本殿に奉斎された。

次に、塩谷宮司が水分の祝詞を奏上し、続いて新井禰宜が水乞いの祝詞を奏上し、豊作を祈念した。今宮神社宮司、秩父神社禰宜、作家老が玉串を奉って拝礼し、今宮神社関係者、秩父神社関係者がそれに続いた。御神酒撤下、直会となり、御神酒とダイコンが参列者に渡された。その後、八代龍王の御神徳、水の御恵みを宿した水麻が、今宮神社宮司から秩父神社禰宜へ、さらに作家老へと授与され、祭主一拜。水分神事は滞りなく修められ、その後一行は市内を再び練り歩き、秩父神社に戻った。

作家老と神部たちは、神社境内の敷石を水田に見立て、古式ゆかしい田仕事の所作を順に演じた。最初の「苗代づくり」では、「田打ち」「くろぬり(畔塗り)」「代掻き」「田ならし」の所作を、続いて「本田づくり」では、「田打ち」「くろぬり」「肥料まき」「カッチキ(刈敷)」「代掻き」「田ならし」「田植え」の所作を演じた。最後に、秋の収穫を象徴する「餅まき」では、作家老および神部たちが、無病息災・開運招福をもたらす縁起物の餅を見物客一人ひとりに配り、春の神事はにぎやかに締めくくられた。

年末、12月3日に行われる秩父夜祭(ユネスコ無形文化遺産)では、春の御田植祭において迎えられる武甲山の龍神を、再び山へ送り返すとされている。

この度、宗教新聞社の代表に石井康博が就任致しました。また、今号より紙面を12面とし、内容をより充実させてまいります。引き続き宜しくお祈り致します。



このところAIに関する話を聞かない日はないが、昨年7月に電通が公表した『対話型AIとの関係性に関する意識調査』で、次のような結果が明らかになっている。対話型AIを週1回以上使用するという12〜69歳の約1000人が対象)▼対話型AIの主な使い方は「情報収集(64%)」や「勉強や仕事などで分からないことを教えてもらう(47%)」といったことが中心▼一方で、気軽に感情を共有できる相手として65%の人が「対話型AI」をあげている。10代、20代では7割を超える。これは「親友」(65%)、「母」(63%)と同じレベルでAIが何でも話せる相手になっているということだ▼アメリカではAIとの対話がきっかけになったと見られる少年の自殺なども起きた。こうした調査結果は現代の孤独や人間性、あるいは幸福感に関する問題を提起している。宗教界でもAIとの向き合い方は、宗派を超えたテーマとして様々な議論が行われている。こうした議論を行うことも宗教が果たすべき大きな役割であろう。